改正
增補

和漢年代記 三

一卷之三

孝元　開化
崇神　垂仁

漢　秦の始皇帝の三十三年より後漢の明帝の永平十三年よりこの

改正和漢年代紀巻之三

元　孝元　八才

己亥　長城ながらし方余里○琴星わくりく秦乃始皇

諱八大日本根子彦國牽の尊先帝才一乃皇子なり母ハ細媛の命といふ磯城の縣主乃大目の命より

しすめなり十九歳にして太子に立ち六十一歳にして位より即

位まします崩ずること五十七年○正月十四日位に昇る

○贄色雄の命と執政す○たゝ元祿六年まで千九百七年

二　戊子　天下よわくゆゑ詩書百家の書とやく　世四

煙三十日わたり焼ぐるもの八医書ト筮

種樹乃書ぐるなり

三　己丑　天ぐ才十四祖竜樹寂す○儒者四　世五

百六十余人と坑ようげむ○阿房宮を

四

三月十日都庚寅

と輕の地よりけと境原の宮といふ

五

皃の太神の社　辛卯

野の國よ天　七月始皇崩ず壽卅九李斯と趙高

ぐら吾道の　しゝの子胡亥とたて〻位よにしむ九月

宮とたて〻鎮　始皇を驪山よりうつ

坐しるす手刀雄の命戸隱山よりうつ岩戸とつて鎮坐しるす

六

九月六日孝　壬辰　才　二世皇帝　名は胡亥始皇の子なり　元

靈天皇を斤　位よわること三年●五月

岡の馬坂の　陳勝うぶぐら楚王となる●八月梵の武臣

陵よりうつ　ぐら趙王となる●九月楚の劉邦沛よ

たてまつりく　兵をたて沛公となる●楚の項梁呉よ

七

三月二日虚　癸巳

色雄の命と

妹虚色女の

命を后とた

いろ開化天

皇むまれさ

ま

兵を起す●齊の田儋ぐら齊王となる

●燕の韓廣ぐら燕王となる●楚の周市

魏の咎をたて魏王とす○衛の君角を庶

人とす衛四十六代九百八年をもてほろぶ

十月沛公秦の軍をやぶる○趙の李良趙武

臣をころす○十二月楚の莊賈楚王陳勝を

ころして秦よ降参す●趙の張耳陳余趙歇

を立て王とす○張良沛公の臣となる●六月

楚の項梁楚の懷王の孫心を立て楚の懷

王とす●韓の成ぐら韓王となる●齊王田

儋魏王咎を害す○七月秦の左丞相李

斯をきりて三族を夷す○楚の項梁死す

●楚の魏豹を魏王とす

八

九

甲午　才三

三世皇帝

名子嬰始皇の孫扶蘇の子なり伝よりて四六日より

元

して漢より攻ぐる○二月彭越兵を率して沛公に従へり○二月秦の章邯楚に降参す

●八月趙高二世皇帝を弑し扶蘇の子嬰を位に立る九月子嬰位より趙高を殺し三族を夷す○沛公秦の函谷関をうけてなぶる

乙未　才一

漢太祖高皇帝

姓劉諱は邦字季沛の中陽の人なり

元

四十歳にして秦をうぶ伝よりて○十月秦の三世皇帝皇帝の璽符をさげて漢に降参す○項羽秦の降参の兵廿万人を坑にしむ漢の兵函谷関を守る項羽咸陽宮をやく秦の荘襄王より四代四十三年にして秦ほろび漢なる○漢の業何と丞相しす○項羽韓王成をころす○漢韓信を将軍とす○楚の王陵漢に降参す●鄭昌韓王となる田榮三つ齊王となる

丙申　二

項羽楚の義帝を弑す○韓王鄭昌漢に降参す○漢王諸侯にきて項羽をうて義帝を弑よむひんと欲す胃諸侯の兵を率して項羽をたすけ項羽漢の軍を破り漢の呂后をとる○漢の韓信魏をうて王豹を虜にす

十

十一	丁酉	冒頓羽漢王と滎陽に圍む項羽が兵急なり○三月韓信趙王を虜にし代王陳余を殺す	三
十二	戊戌	韓信齊の軍とやぶりて龍且を殺す○齊王田廣を虜にす叔父の田横齊王となる○二月漢韓信と齊王をぶつかしてそしる○二月漢韓信と齊王を肯英布と淮南王とす○項羽と漢王と天下を二つに分て和睦せんと約す九月項羽呂后と漢に入る	四
十三	己亥	漢王軍とわかて項羽と垓下にあつまる項羽が軍やぶれて烏江にいたりて死す○正月韓信と楚王となし彭越と梁王とす二月漢王位につき后と皇后とをたてる	五
十四		太子と皇太子とし沛陽にいたる○齊の田横自害す○九月長樂宮をたてる	六
十五	庚子	世尊の入滅七百年にあたる ある人韓信と讒奏す帝韓信をとらへて洛陽にうつし赦して淮陰侯とす○正月從兄の賈を荊王とし弟の交を楚王とし兄の喜を代王とし子の肥を齊王とし曹參を齊の相國とす○太公を尊んで太上皇とす	七
十六	辛丑	二月帝長安にうつる始て定めて都とす○十月長樂宮成就す	
十七	壬寅	賈人のごとく衣裳を着武具をとり馬にのることを禁ず	八
十八	癸卯	如意を趙王とし兼侯を相國とす○齊楚の氏にうつし家をうつす人を都の中にうつす	九
	甲辰	青太上皇崩ず○九月代の陳豨謀反す	十

十九　　廿

乙巳

冬帝陳豨を寇とす○正月韓信を殺し三族を夷す帝子の恒を代王とす○二月諸國の賦法王侯の献ものを定め諸國を詔して賢人を求む梁王彭越を殺し燕を夷し恢を梁王とし友を淮陽王とす○七月淮南王布をむかへ帝ゑびうち長を淮南王とし王布を荆王賈をうつす

十一

丙午

帝王布をうつす○周勃陳豨を誅す○燕王綰謀反す樊噲をして王綰を討ち建たしむ燕王とす○陳平張良を詔して樊噲をきらんとす樊噲長安をゆく○兄の子濞を吳王とす○冬帝崩す五月長陵をうつす

十二

廿一

丁未

才二

惠帝

名は盈高祖の子母は呂后

元

ゆるし七年○名は趙王如意を殺し戚夫人の手足をさり眼をわき耳を燻ら淮陽王友を趙王となす

廿二

戊申

正月日本根子彦太日日の尊

太子よりうまれる

正月丙の龍蘭陵の井の中よりあらはる○二隴西地震す○七月蕭何死す曹參を相國とす○十月楚の元王聲王肥來朝す

廿三

己酉

春長安城を六百里に築く男女十歳以上人を役とす○侯平十二万人をして南面に築く

廿四

庚戌

正月民の孝弟なる者を舉て役をゆるし民の妨となるべき法令をとりのぞく○宜陽に

廿五	辛亥	正月長安の城にて九月ちぐく成就	五
		○八月相國曹參死す○冬雷なり桃李の花さき来たる實なる大ひでらす	
廿六	壬子	王陵と左相となり陳平と左相となり周勃を大尉とす張良死す	六
廿七	癸丑	正月五月の朔日蝕○八月惠帝崩す九月安陵に葬る	七
廿八	甲寅	才三 呂后 姓は呂名は雉高祖の后惠帝の母なり○王陵帝の太傅なり陳平と右相となり審食其と左相となり任敖と御史大夫とす呂后の父を追尊して宣王とし兄の沢を悼武王とす惠帝の子彊	元
廿九	乙卯	淮陽王を不疑と常山王を呂氏の一族と諸侯に列ぬ○秋桃李の花さく	
		正月地震して武都山ぐずれ○七月常山王不疑死すとの義にて○冬呂王台死すなり嘉にて	二
卅	丙辰	秋星ありて星ありて	三
卅一	丁巳	呂后ひそかに少帝を殺し常山王義を帝とし名を弘といふ	四
卅二	戊午	南越王尉佗武皇帝と称す●	五
卅三	己未	春星ありて星ありて○十月呂王嘉を殺して産を呂王とす	六
卅四	庚申	正月呂后趙王友を殺し梁王恢を趙王とし	七

八五	正月五香色女の命容婦嫉まして德わゆ少よたてく死とす彦太忍の信の命とうこのふ	辛酉	七月呂后崩す呂産と相國と呂祿と趙王とす○九月女と帝の后ちなべと遣害す○九月諸の呂民とこれし帝弘と誅し高祖の中子代王恒とむかへて位よにすしむ
八六		壬戌	冬十四 文帝 名は恒高祖の子なり位よ在元

一呂王産と梁王とす秋太と淮川王と刘沢と琅琊王とす○趙王恢自害す呂祿と趙王とす

周勃と右相とす灌嬰と太尉とす○正月子の啓と太子よたて竇氏と后よこれる○胃斉侯地震して山ぐれ大水ときいでる

八七		癸亥	正月帝こづから耕す九月天下の今年の田租半分となる十月陳平死す周勃まる丞相しなる十一月朔日ふる
八八		甲子	周勃まる丞相となる○灌嬰丞相となる○淮北王謀反して自害す
八九		乙丑	十二月灌嬰死す張蒼丞相となる○周勃と嶋より下す既うてゆるす○賈誼と長沙王の太傅とす
九〇		丙寅	二月地震す
九一		丁卯	十月桃花こく○淮南王謀反す廢して罵よそくいうて餓死す○賈誼梁王の太傅となる

○八月周勃官とかうる○南越王尉と称して貢とそそぐ○賈誼と大中大夫とす

四二　戊辰　七
四三　己巳　淮南王の子共人を侯とす○長星東方よりいつ　八
四四　庚午　大よひでりして穀なし　九
四五　辛未　　十
四六　壬申　梁王稱兵す淮陽王武を梁王とす○周勃死す　十一
四七　癸酉　呉の國より兩の角牛の上より生じたる馬あり　十二
四八　甲戌　三月帝はじめて耕し桑とる礼儀をしめす　十三
　　○六月田の租稅をのぞく
四九　乙亥　　十四
五十　丙子　　十五
五一　丁丑　買臣新垣平が浮言を帝きこしめし信陽五帝の廟をまつり新垣平を上大夫とし詔してあらためて明年を元年とす　十六

五二　戊寅　十月新垣平を誅す　後の元　十七
五三　己卯　張蒼官をとかされ申屠嘉を丞相とす　十八
五四　庚辰　天ぐく　才十五祖。迦那提波。薩す　十九
五五　辛巳　四月晦日なし　廿
五六　壬午　　廿一
五七　癸未　匈奴冠となす周亜夫を將として兵を屯し備ふ○夏大に旱す貴とぶき民を振む　廿二
　　九月二日帝境原の宮に崩
　　まします壽百十六歲○十月十二日開化天皇位をうけきさき
元才　九　開化　甲申　六月文帝崩ず霸陵にうづ遺詔して　廿三
　　諱は稚日本根子彦太日日の尊先帝才二の皇子なり母は
　　慶色女の命といふ穂積の臣の祖虛色雄の命の妹なり
　　十六歲にして太子となり五十二歲にして位をうけきさき位を受

しまする事六十年○正月皇后をつくみて皇太后と云○
十月十三日都を太和の春日よりうつして平城の宮と云○元
ゝ元祿六年癸酉のやしまで千八百五十年に成ぬ

二　乙酉　才五　景帝

謙は啓文帝の子なり位に元
あること六年○十月高祖
をたつとゝて太祖といひ文帝をつくみて
太宗と云○張歐大尉となる

三　丙戌

六月甲辰嘉死す陶青丞相となる○彗二
星東北にいづる○秋衡山にあまたる大さ
五寸に成りて三寸

四　丁亥

晁錯が謀によりて七國こゝろを交く周亞夫を三
將として晁錯をころす呉楚の軍をやぶる
七國みな誅に伏す

五　戊子

二月六日孝元天皇に劔
の池嶋の上に陵をつくりまつる

胃王の孫
とす○十月晦日蝕

徹と膠東王四

六　己丑

正月十四日
五香色女の命と成ぬ

七　庚寅

十二月雷なり霖なり

八　辛卯

世尊の入滅
八百年に成
ぬ○正月大
綜麻杵の命を大臣とし二月伊香色雄の命を大臣とす

太子栄と臨江王と膠東王徹と七
皇太子とし王氏をたてゝ皇后とす○
陶青官をくるゝ周亞夫を丞相とす

九　壬辰

胃衡山の原都に雹の大さ尺八寸○是歳中元
と中元とす

十　癸巳

崇神生れぬ
三月臨江王栄を更よりす栄自害す

十一　甲午　三　○月地震して大よひでらす九月晦日蝕
○周亜夫くれさる〜刘舍を丞相とす

十二　乙未　四

十三　丙申　五

十四　丁酉　六　〜〜と後元とす○二月廿二日のわかぢ地震後元

十五　戊戌　元　す上庸城の垣やぶる〜○刘舍をかえる
衛綰を丞相とす○周亜夫死す

十六　己亥　二　正月地震すること一日に三度

十七　庚子　三　十月月の色赤きこと五十二月番なり
雨つち日に色紫のごとし星さそい海に行
月夫延の中をたゝかひて記して農桑と
すゝめ金玉をとることを禁ずむ○景帝崩ず

十八　辛丑　孝武帝　名は徹景帝の子なり建元
位よわること五十四年○
くしてそ年号をたてる○衛綰官をかえ
さる〜寶嬰を丞相とし田蚡を天尉とし
趙綰を御史大夫とし王臧を郎中の
令とし申公を太中大夫とす

十九　壬寅　二　趙綰王臧を吏より下して自害す寶嬰罷
蚡を丞相とし衛青を大中大夫とす○四月
月にごとくなる星いづる

廿　癸卯　三　大よ飢饉して人を食ふ

廿一　甲辰　四　夏風無のごとく赤きことわり○粟つ

廿二　乙巳　五　五経博士ををく

芸三	丙午	許昌くれうく田蚡を丞相とす	六
芸四	丁未	五月賢良文学の人をあつめ○冬國ぐ訓して孝廉なる人をあつめ	元光
芸五	戊申	十月帝雍ようゆき竈をまつり方士を神仙をもとめしむ	二
芸六	己酉		三
芸七	庚戌	田蚡ふんうつて竇嬰をとらへ三月田蚡死す四月霸ばつて草を枯す青薛沢を丞相とす	四
芸八	辛亥	天ぐの哥利樂難陀弥勒の像をたてら甚奇瑞わり○門の險阻をたいらぐ○張湯と趙禹とに訓して律令を公孫弘を博士とす	五
芸九	壬子	五月御間城入彦五十瓊殖の尊太子となる	

芸九	壬子	くゞめて商賈の車船に稅す	六
芸八	癸丑	三月皇太子據生る	元鼎
芸七	甲寅	國ぐに民をとゞめて人を茂陵にあつめむ	二
芸六	乙卯		三
芸五	丙辰		四
芸四	丁巳	薛沢くなる公孫弘を丞相とす○学をとゝめ礼を興す博士のたゞふ弟子幸人をそ	五
芸三	戊午	冬月民を爵と貴罪を贖ふことをなさしむ	六
芸二	己未	十月一つの角五つの蹄ある獸をえたる看司麒麟ならしふ帝天瑞として年号を	元狩
芸一	庚申	公孫弘死す李蔡を丞相とす○張騫天竺をたづねる	二
芸〇	辛酉	燉煌郡の渥洼の水の中より神馬を	三

四九						
	壬戌	癸亥	甲子	丙寅	乙丑	丁卯
	くるめて塩鉄の官を置て賈の車船より○昆明池を作つて水戰をなす	李蔡自害す青翟を丞相とす		張湯自害す青翟を獄に下す自害す		公孫弘谷關を新安よりうつす
	稅す○方士少翁鬼神の方をもつて帝に詐わりて少翁を誅す			趙周を丞相とす○桓梁臺をつくる香柏を梁とす香柏里より三百里又兼露盤を作る高さ廿丈露を美玉の盾をかざりて服す		天子[才十六]祖羅睺羅多殺す○方士の欒大帝に見て臣つかへ海上より往来して安期羨門をえて不死の術を致すべしといふ帝欒大を拜して五利將軍とす後にかふ誅せらる
	まこゆ神異をいふ帝拜して文成將軍とす			天子太神を祭る		
四	元鼎	五	六	元鼎	二	三

四六						
	己巳	庚午	辛未	壬申		
	九月列侯百六人の爵をうばふ趙周獄に自害す石慶を丞相とす		東越王の余善そむく漢の兵をうつ國民余善をとらへて漢に降參す○帝海をゆきて神仙をもとむ	夏蝗蟲桂觀通天臺をたてる○年		
五	六		元封	二		

五〇	辛		泉宮に靈芝生す秋明堂をたてらる
五一		癸酉	十二月雷なり雹の大さ馬の頭のごし
			○くゞめて角抵のなれをなす
五二		甲戌	
五三		乙亥	帝胡越をたゝかひ地をひらき十三郡をたてゝ各の刺史をおく○冬帝南よりぐゝ泰山によらる
五四		丙子	太液池をたてゝ中に蓬萊方丈瀛洲をたゝる○宗室の女を公主となづけ烏孫に嫁しむ
五五		丁丑	太初歷をたてゝ正月を歲の首とす○十一月天火をもて桂梁臺を焚る帝うらをうる乃道書四卷みな燒くらる

五六		戊寅	丞相の石慶死す公孫賀を丞相とす
五七		己卯	
五八		庚辰	明光宮をきづく
五九	世尊の入滅八百五十年になる	辛巳	春蘇武を匈奴に遣す單于ゝ〻を北海の中ほとゝ蘇武雪をゝ旗の毛を咽て數日死せず匈奴神のごとくして海上にすむ
六〇		壬午	李陵を將として單于をうつて數千人を殺す
六一		癸未	李陵が軍侯の管敢匈奴に降參して李陵が援の兵なきことを告ぐ單于師をすゝめ李陵を谷底に圍む李陵たゝかひ降參す
六二	胃九日帝御惱なりて卒川の宮に崩まします壽百十一歲十月壬辰		三月帝東に巡らる

門の坂の上に陵よりたてまつる

元　甲申　四

十才　宗神

諱は御間城入彦五瑞殖の尊。先帝第二の皇子なり。母は五百重姫の命と云物部氏の祖太綜麻杵の命の女なり。十九歳にして太子となり五十二歳にして位に即き給ふ。位に即給ふ。後すること六十八年。○壬月十三日位につき給ふ。二月十六日御間城姫を皇后とす。○これより元孫六年癸酉の年まで千七百九十年にあたる。○八王子の社。淡海の志賀の郡日吉の山の麓もとに鎮坐す

二　乙酉　大鉦

三　九月都を磯城に遷す　丙戌　二

瑞籬の宮と云

四　二月五日建膳臣の女　丁亥　三

命を大彦と云。田畔の命を宿禰とす

五　戊子　疫病やまず死する者半に過ぬ

帝、泰山に幸して西王母をまつりて霊をもとむ　四

六　己丑　八王の子をまつる

神代の鏡剣を天皇の床を同じくして坐しまつる。五百六十年わたり衛神の威を畏れ、別殿に安置す。○天照大神と豊鋤入姫に託て太和の笠縫の邑にまつり大国魂の命を渟名城入姫に託て太和の三諸岡に祭る　征和

七　十月大田田根子の命をもて大物主の神を祭り市磯長尾市に討しむ　庚寅　公孫賀罪わり獄に死す。厩の鷹を死相とす。○帝、譖を信じ太子の據を討しむ。據、詐りて自害す　二

尾張の命をして大國魂の神をまつりしむるに天社。國社をさだめて神地神戸をしるす　疫病始てやゝ五穀成就す

八　冒十六日高橋活月　辛卯　四年秋七月江充が讒によつて太子罪なくして死することを訟て帝悔て江充が家を滅す○六月丞相石慶を命じて大丞相とす

九　墨坂の神に大坂の神をまつる　壬辰　冒四年秋七月丞相とす○雍列に屋空をうけつゝ声四百里きこゆ

十　九月九日大彦の命を北陸道に武渟川別の命を東海道に吉備津彦の命を西海道に鄙羽道主の命を丹波道にたゝかしむ　癸巳　趙夫人の子弗陵を太子とす

後元

十一　甲午　武帝崩ず壽七十一

十二　民の課役をなす　乙未　才　七　昭帝　諱弗陵武帝の子なり始元　位よわゝとして十三年

十三　丙申　三月諸國の貧しき民に種食を賑しとゝず田租半分をのぞく

十四　丁酉

十五　戊戌　上官桀が孫健伊を殺す年五歳

十六　熊野の本宮を紀伊むろの郡の熊野の地にうつす　己亥　冒月ひとりの男子黄牛にのり門にはいりて太子なりと詐り

十七　冒月部して始て諸國に船をたゝる　庚子　部して賢良文学に民の疾苦をとふ○蘇武匈奴よりかへる

廿八		辛丑	八月鄂邑長公主燕王旦と上官桀父子と謀反して皆誅ふくす	元鳳	元平
廿九		壬寅		二	
卅		癸卯	青森山よりたのくと石こり上林の僵こうの柳どのくと起こり柳の葉よ出ひて公孫病已立とふ五字の文あり	三	
卅一		甲辰	二月田千秋死す王訴と丞相とす	四	
卅二		乙巳	十二月王訴死す	五	
卅三		丙午	楊敞と蔡相とす○蹇東の玄菟城とそなる	六	
卅四	任那の國より未の額より角ある人船よりて越前の角鹿の津よきこる		四月昭帝崩ずとき廿歳		
卅五	磯の宮と伊勢の平鈴河上よ立る	戊申	才 九 中宗宣帝 諱ハ詢武帝の曾孫衛太子の孫史皇孫の子なり位よあること廿五年	始	
卅六		己酉		二	
卅七		庚戌	霍光が妻ゑの女を后よ立んと欲すれども○蔡義死す韋賢を丞相とす	三	
卅八		辛亥	霍光がひとあと皇后とす○四月地震して山くづること二郡祖宗の廟をやぶる	四	

天ぐ　才十七祖僧伽難提寂す

才 八 昌邑王　治ハ賀武帝の孫なり昭帝の喪よりて婬乱なり

九	二月朔壬寅 仁徳の御				
九		癸丑	壬子	千定國を廷尉とす	
九一		甲寅		霍光死す○鳳凰晉よりあつまる	二
九二		乙卯		霍禹霍山霍雲等皇后の兄を以て丞相等ときらう帝を廢し霍禹をたて霍山自害す霍禹をきらう霍氏の一族とらる市よりつ霍皇后をもとりける	三
九三		丙辰		西域の莎車國漢よりむく馮奉世をして帝を奉ぐ帝馮奉世を光祿大夫とす	四
九四		丁巳			二
九五		戊午			三

九六		己未		高祖より功ある臣の後より爵ける者を求め金を賜らて家を復す○張安世死す	四
九七		庚申		王褒聖主得賢臣の頌を上る○帝甘泉より往て泰時と交りて河東より往て后土をまつる	神爵
九八		辛酉		二月鳳凰京師よりあつまる耳露ある	二
九九	天照大神	壬戌		三月魏相死す丙吉を丞相とす	三
九九	波の吉備の宮より遷幸				
四〇		癸亥		十月鳳凰杜陵よりあつまる	四
四一		甲子			五鳳
四二		乙丑			二
四三	天照大神	丙寅		丙吉死す黄霸を丞相とす	三
	太和の伊豆加志本の宮より遷幸				

四四　丁卯　四五　戊辰　張敞冀州の刺史となり韋玄成淮陽の中尉となる○四月黄竜あらはれ太上皇崩ず宗の廟やうやく

四六　己巳　四七　庚午　功ある臣を麒麟閣によがく鳳凰新蔡に集まる○諸儒に命じて五経の同異を講ぜしむ○黄覇死す于定國を丞相とす

四八　四月十九日詔して東國を治しむ○世尊の入滅九百年に及ぶ　辛未　四九　壬申　十二月宣帝崩ず壽四十二　黄竜

五〇　天照太神紀　伊名草濱の宮に遷幸　五一　甲戌　五二　乙亥　夏ひでりす　五三　丙子　三月帝御東に行きて后土を祠らるゝ

五四　癸酉　才十　元帝　諱は奭宣帝の子なり　初元　位に即くこと十六年○青州の宜帝を杜陵に葬る○帝の田なしを苑となつて貧しき民に賑し種食を与ふ○六月大に疫病やまず詔して膳を損じ樂を減じて困窮を救ふ○九月関東大水あり貢禹を諫官とし穀食を馬肉食する獣を減す　二　庵西地震す○四月子の驚を太子とす○関東飢饉○七月地震す○十二月兼望之自害す　三　四

五四　天照大神。丁巳　六月塩鉄の官をやしろ
吉備の名方濱の宮より遷幸す

五五　戊寅　三月雷ありて隕ち霜桑をうつす大に飢
饉す○于定國を宦をやめらる　永光

五六　己卯　二月韋玄成を丞相とす　二

五七　庚辰　十月地震雨ふり水いづ○塩鉄の
官を博士の才子の員千人ばかり　三

五八　天照大神。辛巳　六月晦日しよく　四

太和の弥和の三室の嶺上の宮より遷幸こゝにおいて豊
秋入姫吾日足とのふとなゝ倭姫天照大神を戴て
諸國より行幸

五九　壬午　七月十四日矢　癸未　正月梁より虚空より石おちる　五　建

六〇　田部の祖武
諸隅の命ともに八十山を雲の大社より綱ゝこゝろ神宝と
検定す○倭姫天照大神を戴て宇多の秋志野の宮より遷幸　昭

六一　甲申　秋魏郡の太守京房をころす　二

六二　七月訶ゝ乙酉　六月韋玄成死す匡衡を丞相とす
他講をひらき農の事をもゝむ十月依綱の池をほりて十
二月苅坂の池をほりて反折の池をほりたにおゝて田畠をひ
五穀大にみのりて万民快樂す　三

六三　丙戌　十月藍田地震す山崩て霸水をふさぎ
安陵の岸くづれて渭水をふさぐ　四

六四　倭姫天照大神　丁亥
神々のせて伊賀の隱布守の宮より遷幸

六五　正月武諸隅　戊子　正月勾奴の呼韓邪単于来朝す帝　五　敦

の命を大連
とす七月任
那の國より蘇那曷叱智を使として
皇わらときく故に使を遣して貢ぎぐ

壬申 月渭陵に葬る

壬申君となりて○五月帝崩ず壽四十三七

六六 天照太神。己酉 才十一 成帝

伊賀の穴穂の宮に
遷幸す

讃八鷲元帝の子なり倭建
よわ十六年○四月黄雨
霧四方にふさがり八月月兩なりんで朝東
の方に向へり

始

六七

六八 十二月五日 庚寅 辛卯

帝瑞籬の
宮に崩ま
しぬす壽百廿歲

秋。関内大雨ること四日わまり○十月朔
日ようく夜地震す○越嶺山くづる
○医衡。罪わりて官となること虜人となる

三

二

元 才十一 垂仁

讃八汪胴入
彦五十狭茅の尊。先帝才二の皇子なり母八御間城姫
という大彦の命の女なり廿歲にして太子となる四十一歲
して位に即きます位に即きます九十九年○五月二
日位につきます○十月十日崇神天皇を山邊道の上の陵
に葬る○元祿六年まで千七百廿二年にあたる

壬辰 正月亳に虚空より石たつること四ま肥繁
ようにいること二○王商を丞相とす○四月雪
ふり秋桃李に實なる

四

二 天照太神。癸巳 春。王延世を河内の使者とし河水の河
伊勢の敢 提さることを塞がしむ 平
都美恵の宮に遷幸○二月九日狭穂姫を皇后とす
つ○十月十五日都を纏向に珠城の宮とする

三 三月新羅 甲午 夏。楚の國に大わまり

二

年	日本	干支	唐	年
	より王子天の日槍を使として七の宝物をさゝぐ			
四	天照太神淡海の甲賀郡日雲の宮に遷幸○九月廿三日皇后の兄狭穂彦の命謀反して匕首を皇后にあたへて陰に帝を弑したてまつらんとする	乙未	二月犍為郡地震して山くづれ江水をふさぎ水逆しまにながる 八月晦日しよく	三
五	十月二日皇后帝を弑する事を忍ず兄の謀反を帝に奏し宮中をいで狭穂彦とともに城中にして自害し死します	丙申	三月朔日しよく○四月王商が丞相の印綬を收めて張禹を丞相とす	四
六		丁酉		陽朔
七	七月七日出雲の野見の宿祢と大和の當麻の蹶速と力をあらそひ野見蹶速を蹴ころすこれ日本にて相撲のはじめとす	戊戌	秋関東大水	二
八	天照太神淡海の坂田の宮に遷幸	己亥	三月東郡に虚空より石ふりつること八	三
九		庚子	四月雪ふる	四
十	天照太神美濃の伊久良河の宮に遷幸	辛丑	三月張禹が官をやめて薛宣を丞相とす	鴻嘉
十一		壬寅	刘向列仙傳を撰ず○國々のせをだしろ人を昌陵にうつす	二
十二		癸卯		三
十三	天照太神尾張の中嶋の宮に遷幸	甲辰		四
十四	天照太神伊勢の桑	乙巳	四月諫太夫刘輔獄に下さる	永始

名乃野代の宮に遷幸

十五　二月十日丹波乃國に丙午　二
五人の女ありて后妃
とす八月朔丹波道
主の王乃女日葉酢姫
を皇后とす

十六　十未　三

十七　景行天皇しまして戊申　天皇　才人祖伽耶舎多寂す　四

十八　天照太神師佐賀藤己酉　冒雲なふして雷なり流星東
方行樹乃宮に遷幸　南よゆ〜四面雨のごと　元延　二

十九　庚戌　辛亥　青岷山くづれ江水とふさぐ　二

廿　三

廿一　壬子　関東に空うして石れつること二

廿二　天照太神飯野乃高　癸丑　二月定陶王欣を太子とす王　綏和　六
宮に遷幸　恭を太可馬とす　四

廿三　十月八日帝御遊して　甲寅　二月程方進死す三月帝崩ず　二
大敗乃前よりたなり
皇子誉津別乃尊三
才まで宜ず迄のみ
し見乃ごと此時こうどの傷よりのへり鶴乃なくとえのい
てらじめてこしハ何物ぞしのみ

廿四　乙卯　才十二　哀帝　諱ハ欣元帝乃孫建平定陶王箕の子
位よりあること六年○正月北地に虚
空うして石れつること十六文九月虞に二隕

廿五 三月天照大神伊勢に遷幸 倭姫神託 丙辰

官より遷幸 倭姫神託 蒙り伊勢の國度遇の郡宇治の郷五十鈴川のほとりに遷宮して鎮坐今の内宮これなり

夏孔光が官とをのち廢人とす 朱傳と丞相とす 六月年号を太初と改め帝を陳聖劉太平皇帝と つゝ八月詔して改元をやめ尊号をとゝ○朱傳羅網して自害す 十月平當を丞相とす

二

廿六 八月三輪の神託 己巳

國郡をたてて大社をたてゝ

三月平當死す 四月王嘉を丞相とす

三

廿七 八月七日帝瑞夢をうる 戊午

弓矢太刀と諸の神の社より納め神地神戸を定め祭をなす

四

廿八 十月五日帝の木像 己未

彭の命薨の父身

丞相の王嘉を殺し七月孔光を丞相とす 元壽

廿九

狹桃花鳥坂にそうる近習の者を集めて生埋にしめて陵をつくる數日まで死せず昼夜ねしなく帝あり こたへずして勅して此後死に殉ずることをやめしむ

庚申 五月三公の官を平して董賢を太司馬とす 孔光を太司徒とす 彭宣を太司空とす 六月帝崩ず 董賢羅網して自害す 太皇太后王莽をもつて太司馬とす 皆中山王箕の子衍をもつて太子とす 八月成帝と哀帝との居をもつて國より人を皆自害すまた諸大臣の官爵をもつて九月行伝より太皇后朝よのぞこ

二

卅　帝平瓊敷の尊大足彦の尊二人の皇子と大歌入て其御情思ところとのよ　辛酉

卅一　壬戌　九月晦日ちゝく

卅二　七月六日皇后夢すし波す野見乃宿禰土ゝそ偶人とをもて死よ殉ふ者よ代ろ帝ゝて土部乃姓とたまはる　癸亥　三

卅三　甲子

王莽敗とゝろ十月哀帝と茂陵よりうつる

平帝

十三　才

諱ハ衍元帝乃孫なり九歲ゝて位始よりく位よりあること五年○二月王莽と太傅ゝ安漢公ゝふ

王莽が女と皇后とす夏王莽ゝが子王宇と殺ゝ帝の母乃家と滅ゝ敬武公主まゝ記鄉侯の何武もゝ司隸乃鮑宣等數百人とゝろも

王莽と宰衡ゝ諸侯王乃上

卅四　三月朔帝諸臣よ國乙丑　十二月王莽平帝と毒酒ゝて弑す壽十四大皇后詔して宣帝乃玄孫とむかへて位よたゝむ　五

社縣社とたゝくゝめ財宝と散て万民と沢さしめるよ同月山背乃國よ幸あって綺戸島姫とゝして妃とす

卅五　九月飢饉ゝて帝詔して貢と納むるハこの時乃為すゝのたまひて民の役とゝゝめ御藏とひらき穀と諸國よたゝよとゝむ○官乃名すゝびよ十二列乃界とわゝゝあ定む○大保の王舜等書とゝゝて王莽が功德と称もゝ者八千余人

孺子嬰

才　十四

諱ハ嬰宣帝ゝ玄孫なり二歲よ

居摂

て位よたゝく位よあること三年○四月刘崇王莽が位と簒んとすることと知て兵とあゝめ莽とゝ

		癸卯	九月東郡の太守瓘義劉信と天子と一矢と起して王莽とうい諸國の兵こしなをさぶ者十余万人王莽兵をたくり推たふる瓘義討死し劉信ひとりの主莽ゞ威勢日よりんなり	克ずして死す○太后詔して王莽と假皇帝といふ
癸六	五穀大ばこの方民快樂す			
癸七	正月朔大足彦忍代別尊太子よたちまふ	戊辰	十二月長安の衣章銅の匱と作りて王莽よりさぐ莽天の高祖と位とし自位よりき新皇帝より禪りなりして自位よりき新皇帝と太后と新室の太皇太后とす漢の高祖の即位より十代二百十四年にして王莽位とする漢の代中ごろ衰微す	初 始

癸八		己巳	新 王莽 姓は王名は莽字は巨君王曼の子元帝の后の姪なり孺子嬰を廢して位とりて國とあらあ新しい位とりすむこと十六年○孺子嬰と安定公とし漢の諸侯王の官爵降も○四月劉快兵を起し王莽とうつ克ずして死す○冬雷なり桐花さきあり	始建
癸九	五十瓊敷の尊茅渟菟砥川の上の宮よりたかあそまり	庚午	二月王莽漢の諸侯王とをとて民とす	二
甲		辛未		
四一		壬申	東西の都なびよ諸侯の数とさだむ	四
四二		癸酉	十月彗星あらわる	五

四三		甲戌	七月大風ふきて木とぬき尾と飛ー電ふして牛羊と殺す北部飢饉ーて人とくふ	天鳳
四四		乙亥		二
四五		丙子	二月地震ー大雪ふる深さ一丈竹植皆かる	三
四六		丁丑		四
四七		戊寅	王莽富る者の財とうばふて軍の用とす○楊雄死す○琅琊の樊崇東海の子都兵を起す	五
四八		己卯		六
四九	らしよう元祿六年まで千六百七十四年よれよふ	庚辰	七月大風ふきて王莽ふる王路堂とやぶる九月王莽光廟と長安の南よりふる大雨ふること六十日にのぼる○鉅鹿の馬適永王莽と誅せんとしふるはずして死す	地皇

五〇		辛巳	正月太子臨王莽と殺さんとする事ありて自害す秋七月霜降る○王莽高祖の廟とこぼつ	二
五一		壬午	天ぢく才十九祖憑摩羅多寂す○四月樊崇ら兵をこして赤眉といふ王莽ら太師の王匡將軍の廉丹をしたがへ綠林の兵と下江新市の兵といふ莽ら將軍の嚴尤と陳茂とをしたがへ百諸方の軍兵わかせ莽ら軍とやぶる將軍廉丹とらる漢の劉演劉秀兄弟兵を春陵より起ー漢を再興せんと諸方の軍をしたがへ	三
五二		癸未	淮陽王　姓は劉名は玄景帝七代の孫なり諸將委とたてて帝とす	更始

位よわらし三年年号を更始しめらむ
○六月淮陽王劉演を殺し劉秀を破
虜將軍とす九月諸將軍を長安よす
めて王莽を誅し漢ふたびたらす○劉氏の
一族相ともろて帝と称す

五三　甲申　二月都を長安よりし李松を永相と
す四月劉秀を蒹王よ封ず　二

五四　四月伊莽諸乙酉　東漢　才一　光武帝
乃尊を出雲　令鈴の子なる王莽を誅して位よたく
の國秋鹿の　位よわらし此三年○四月蜀の公孫述
郡伍陵乃　ふたたび成帝となのり年号をたて龍
宮伊莽用　興といふ○六月帝位よたき年号を改め
し尊を合せ　諱ハ秀の字ハ文叔景建帝七世の孫南頓の武

五五　祭ろ

五六　丙戌　建武といふ七月鄧禹を大司徒とし王梁
を大司空とし吳漢を大司馬とす○赤
眉劉盆子を帝と称す○劉玄高陵よは
しる帝淮陽王よ封ず○十月帝都を
洛陽ようつしをさめて東漢といふ○梁王永
帝と称す○赤眉淮陽王を殺す○匈
奴盧芳をむかへて漢帝とす

丁亥　正月功わろ臣を列侯とす王梁を官とやめ　二
宋弘を大司空とす劉演の子劉章を
太原王とし興を魯王とし淮陽王の子
三人を列侯とす公列侯の王莽よ絶れ
ろ者を復せ
正月鄧禹大司徒の印を上ろ伏湛を　三

五八	五七	
己丑	戊子	
燕の彭寵、奴彭寵と殺して漢に降参し帝、奴と不義侯とす○六月秦豊漢に降参す帝、これをとらず○梁の人、刘 五	四月漢の耿弇と祭遵と張豊とをうち○九月侯霸と尚書令とす	大司徒とす○豫郡の太守張豊そむき○馮異赤眉の軍とやぶり余黨を降参す國と傳ふる璽綬を帝によさぐ○二月刘永、董憲と海西王とし張步と齊王とす○彭寵こづゝ燕王となり○七月睢陽の人、刘永をうつて漢に降参す余黨、其子刘紆と梁王とす○十一月淮南の李憲こゝ帝となり

六十	五九	
辛卯	庚寅	
春、馬援、公孫述、隗囂と朔寧王とす○五七月李通と大司空とす○冬、西平王の盧芳、朔方の守田颯、雲中の守高扈、漢に降参す	正月漢の將吳漢、董憲と龐萌とをうつて江淮山東を盗くゝ平ぐ○四月隗囂、漢に叛いて馬援と○馮異、盧芳と匈奴の軍とやぶりて北地を盗くゝ平ぐ○十二月大司空の宋弘、官をとゝれつ 六	紆ときつて漢に降参す漢の耿弇、張步をうつ張步、刘紆と將蘇茂とをうち漢に降参す茂、齊を十月伏湛、官を免じ侯霸と大司徒とす

六一　壬辰　四月帝、ごう〜隗囂とうの囂が衆皆降参す囂西域よりしろ　八

六二　癸巳　漢の将軍、祭遵死す馮異うりて将と　九
なる○隗囂死す子の隗純将となる○
漢の将軍馮異等隗純と天水より

六三　甲午　漢の馮異死す十月漢の諸将隗純が　十
軍とやぶる隗純漢より降参す王元蜀より
しろ隴右とぐを平ぐ

六四　乙未　六月蜀の公孫述盗より漢の将軍来歙十一
と殺さす馬成うりて将となる七月漢の
岑彭と戦宮と大より蜀の軍とやぶる蜀
の将王元降参す○十月公孫述盗より
漢の岑彭とうさす

六五　丙申　十一月漢の呉漢蜀の軍と大よやぶりて　十二
公孫述と殺す蜀の地盗く平ぐ

六六　丁酉　正月侯霸死す韓歆と大司徒〜　十三
竇融と大司空とす

六七　戊戌　十四

六八　己亥　正月韓歆官とうる韓歆自害す　十五
歐陽歙と大司徒とす十一月歐陽歙罪
わり獄に下して死す戴涉と大司
徒とす

六九　庚子　二月交趾の主徵側徵貳女りそむく　十六
○盧芳漢より降参す代王に封ぜら

七〇　辛丑　十二月蒲亡車王賢と漢の大将軍と〜馬　十七
援と伏波将軍として交趾とうむ

七一	壬寅	三月帝御東に往て后土と祖りまつる○五月廬芳まうこそしいて匈奴よりしろ	十八
七二	癸卯	正月宣帝と尊んで中宗とし始て元帝に十九より以前の帝を太廟に祖り成帝より以来の帝と長安に祖る○馬援徵側徵貳ときこり四月臧宮文聖の余黨とやぶり六月太子強とをて東海王子の陽と太子として名と莊とにうつす	
七三	甲辰	四月戴涉獄に下されて死す賈融つせられてと大司徒と朱浮と大司空とす	廿
七四	乙巳		廿一
七五	丙午	九月地震す○朱浮をれかろ杜林と大司空とす	廿二

七六	丁未	十月武陵蠻そむく○大司徒の蔡茂。大司空の杜林死す王況と大司徒と張純と大司空とす	廿三
七七	戊申	七月馬援をして武陵蠻を征伐せしむ○正月匈奴の南単于日逐王比使をつかして貢をささぐ	廿四
七八	己酉	正月新人難昇烏桓を朝して貢ぐ○四月馬援死す	廿五
七九	庚戌	正月くにめて壽陵とをかる	廿六
八十	辛亥	夏王況死す五月詔して三八食の字をかる司馬とわかるあて大尉とする趙憙を大尉とし馮勤を司徒とす	廿七
		世尊の入滅千年をなる	

八一　二月彌五太　壬子　北匈奴和とうかゆるす　廿八
支子市根の命より物部の姓となまりて大連となる

八二　癸丑　二月彌日ちうく　荒

八三　甲寅　夏大水いたしる　北

八四　乙卯　五月蝗日ちうく　北一

八五　丙辰　正月才五倫と會稽の太守とす○京師中元
ゆ醴泉ときどき出のむ者疾いや又諸國より
甘露ふる赤草生ず○夏司空の張純
司徒の馮勤死す馮勤と司空とし李
訢と司徒とす十一月明堂靈臺辟雍
とをたてる

八六　日本ちうめて使と漢に通ずといふと或書に見えり　丁巳　二月帝崩ず三月原陵にをさむる　二

八七　二月十三日帝戊午　才二　明帝
郡臣と集め　譲位ありて十八年○五月　永平
酒宴となる　八社光武帝の子なり

八八　七月十日新己未　正月光武帝と明堂にまつる　二
羅ノ天の日槍ノ曾孫清彦七ノ宝物と献て帝に見ゆ
大傅ノ鄧禹死す○東海王の強死とす

八九　庚申　二月太尉ノ趙憙司徒ノ李訢とをかる　三
郭丹と司徒とし虞延と太尉とす○馬
援ノ女と皇后とし烟と太子とす中興
ノ功ノ臣廿八人と雲臺に畫く○帝使
十八人と天竺にはして佛經をもとむ

九〇　二月彌帝　辛酉　十月司徒ノ郭丹司空ノ馮勤をかる　四
御夢ようう　范遷と司徒とし伏恭と司空とす

天の日槍が孫田道間の守の命を常世の國にはかり香菓を求めしめ給へ今の橘これ也

九一	壬戌		五
九二	癸亥	二月玉縄崎より宝の鼎とりあげて	六
九三	甲子		七
九四	乙丑	二月司徒の范遷死す虞延と司徒と	八
九五	丙寅	帝儒李たつよ匈奴子と漢につかへ	九
九六	丁卯	二月廣陵王の并罪わりて自害す國	十

と絶す○天竺の使沙門と経像と得て
久ろ帝自馬寺とかける摩騰竺法蘭四
十二章経と飜譯す

九七	戊辰		十一
九八	己巳	七月司空の伏恭やめられ牟融と司空	十二
九九	庚午	七月帝釈迦の像と供養す○国土ゆさふりて栗一斛の値三錢	十三
		十一月楚王英罪わりて丹陽に廢せらる	
		○沙門法蘭十住断結経とかす	

珠城の宮
して崩まし歳百四十歳十二月十日菅原の
伏見の陵にうつりてまつる

和漢年代紀巻之三 終